



COVERAGE REPORT

2025.7.04

Cartier

Publication/Platform: Third News
Issue-Date: May 27, 2025
Content: MOTHER EARTH Concert

サードニュース



国内(政治・国会・社会・行政) 国際 経済 エンタメ スポーツ



2025年大阪・関西万博でカルティエ が音楽の力を称賛する理由



カルティエが奏でる未来へのメッセージ

2025年に開催される大隈 関西万博に向けて、カルティエは革新的な試みとして「ウーマンズ パビリオン」の出展を発表しました。それを記念して行われるコンサート『Mother Earth（マザーアース）』は、ただの音楽イベントではなく、感情や自然、そして未来への強いメッセージが込められています。

このコンサートは、2023年5月23日にザ・シンフォニーホールで開催され、シモーネ・メネセスが指揮を担当しました。彼は自身のコンセプトを通じて、音楽が人々をどのように感情的に結びつけるか、そしてそれを超えて人間の存在を問う力を持つのかを語っています。シモーネは「このイベントは自然へのオマージュであると同時に、私たちが持つ感じる力や、その力を通じて自然を大切にする必要性を伝えるもの」と述べています。

自然を守るメッセージ

『Mother Earth』というテーマの音楽が奏でられたこのコンサートでは、ファジル・サイが作曲したピアノ協奏曲『Mother Earth』が初めて披露されました。この協奏曲は、地球温暖化や生態系の変化に警鐘を鳴らすものであり、アーティストたちがこの問題に対して行動を起こす必要性を訴えています。ファジル・サイ自身が寄せた言葉には、「この曲は、私たちが守るべき自然の美しさを訴えるもの」とあり、彼の情熱が込められています。

特に、自然界の四要素（水、空気、火、大地）からインスピレーションを得たこの曲は、それぞれの要素の関係性を表現しています。音楽を通じて人々に自然とのつながりを再認識させ、共通の起源である自然について考える契機となることを目指しています。コンサートの中で演奏されたドュビッシーの『ラ・メール（海）』やエイトル・ヴィラ＝ロボスの『アマゾン森組曲Ⅱ』も、自然との深い結びつきを強調しています。

ウーマンズ パビリオンとその意義

「ウーマンズ パビリオン」は、カルティエが内閣府や経済産業省と協力しながら出展するもので、すべての人々が平等に生き、共に輝ける未来を目指します。このパビリオンでは、女性の視点や体験を通じて、公平で持続可能な社会を築くためのメッセージを発信します。

特に、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に則り、音楽とアートを軸にした交流が期待されています。この取り組みは、未来の世代に向けた希望を示し、より良い社会を築くための第一歩となるでしょう。カルティエのような名立たるブランドが手掛けるプロジェクトは、多くの人々を巻き込み、新たな文明の扉を開く力を持つと期待されています。

コンサートの詳細やウーマンズ パビリオンに関する情報は、カルティエの公式ウェブサイトや万博の特設ページで確認できます。音楽とアートを通じて、私たちの未来について考えるきっかけを提供してくれる貴重なイベントです。

フォトクレジットはすべて Yuta Kono © Cartier。このコンサートの成功に感謝しつつ、さらなる自然保護への意識向上が期待されます。



会社情報

会社名
リシュモン ジャパン株式会社

住所
東京都千代田区麹町1-4半蔵門ファーストビル

電話番号



関連リンク

サードペディア百科事典: 大阪府 大阪市 音楽 万博 カルティエ

Wiki3: [大阪府 大阪市 音楽 万博 カルティエ](#)

Publication/Platform: Ladytopi News
Issue-Date: May 27, 2025
Content: MOTHER EARTH Concert



カルティエ、万博「ウーマンズ パビリオン」出展を祝う音楽祭を開催



カルティエが贈る『Mother Earth』コンサートについて

2025年の大阪・関西万博に向けて、カルティエが心を込めて準備した音楽イベント『Mother Earth（マザーアース）』が、5月23日（金）に大阪のザ・シンフォニーホールで開催されました。このイベントは、万博内の「ウーマンズ パビリオン」出展を記念しています。指揮者シモーネ・メネセスがプロデュースしたこのコンサートでは、ファジル・サイが手掛けたピアノ協奏曲『Mother Earth』が初めて披露され、その音楽的な魅力を存分に伝えました。

地球への賛歌

このコンサートのプログラムは、まさに自然をテーマにした音楽祭です。指揮を担当したメネセスは、「音楽は私たちを感情的に結びつける力を持っています。このコンサートは、自然へのオマージュとしてだけでなく、私たちが持つ感受性や聴く力、自然と私たちの関係について考え直す機会だと感じています」と述べています。この言葉からも、本コンサートの意義が感じられます。

プログラムの内容

コンサートの中の目玉でもあるファジル・サイのピアノ協奏曲は、地球の現状にも警鐘を鳴らします。この作品は、環境問題と向き合う重要性を訴えており、特に地球温暖化や生態系の変化に対するアーティストたちの意識を表現しています。

曲は自然の四つの要素、水、空気、火、大地からインスパイアを受けており、各要素のつながりが美しい旋律で描かれています。ファジル・サイはこの曲について、「私たちが直面している環境問題に対する警告のようなものです」と語っています。このメッセージは、単なる楽曲の美しさにとどまらず、聴く者に強い影響を与えるものでした。

音楽と自然の融合

また、今回のプログラムでは、ドビュッシーの『ラ・メール（海）』やエイトル・ヴィラ＝ロボスの『アマゾン森の森-組曲 II』も演奏され、音楽を通じて自然の壮大さとその美しさを多角的に

楽しむことができました。これらの選曲は、コンサート全体の構成をより一層魅力的にする要因となっています。

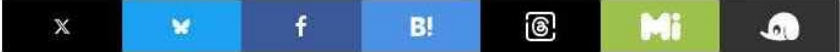
サステナブルな未来に向けて

カルティエは「ウーマンズ パビリオン」を通じて、2025年大阪・関西万博への出展をさらに強化し、真の平等や持続可能な未来の実現を目指しています。このパビリオンは、すべての人々が互いに尊敬し合いながら、共に生きる未来を考えるきっかけを提供します。特に女性たちの体験や視点を大切にし、来場者に対して公平な社会を築くことへの意義を訴えています。

ふれあいの場として

このボリューム感たっぷりのコンサートでは、来場者のみならず、世界中の人々とのつながりをも生み出すことを目指していました。音楽だけでなく、自然の大切さについて再認識させるこのイベントこそ、私たちが求めていた「ともに生きる未来」の一端を担っています。

ぜひ、今後のカルティエや大阪・関西万博の動きを注目していきたいですね。そして、このようなイベントを通じて、私たちも持続可能な未来に向けて一歩を踏み出していきましょう。



関連リンク

サードパーティ百科事典: カルティエ ウーマンズ パビリオン 母なる大地

Publication/Platform: Jocее News
Issue-Date: May 27, 2025
Content: MOTHER EARTH Concert

Google 提供

Jocее

anou PIXUS

買い替え時は、今！



NEW TS8830

性能をチェック！▶

【新製品】キヤノン PIXUS TS8830

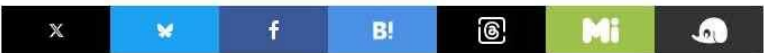
写真あざやか文字もくっきり「6色ハイブリッドインク

Sponsored by: キヤノン

詳しくはこ



カルティエが贈る『Mother Earth』コンサートで自然の美を称賛



カルティエ、『Mother Earth』コンサートで自然を称える

2025年の大阪・関西万博におけるカルティエの出展を記念して、2025年5月23日、大阪のザ・シンフォニーホールで特別なコンサート『Mother Earth（マザーアース）』が開催されました。このイベントでは、ピアニストで作曲家のファジル・サイが手掛けた協奏曲がワールドプレミエとして披露され、大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏が響き渡りました。

コンサートの意義とは

このコンサートは、自然と音楽の深い繋がりを表現する機会となりました。アーティスティックディレクターであり指揮者のシモーネ・メネセスは、音楽を通じて私たちが感情的に結びつくだけでなく、自然界への感謝の気持ちや人間性を再確認することが重要だと述べています。彼は、「このコンサートは単なる自然へのオマージュではなく、私たちが感じ、聴く力について考え、祝うことへの招待状なのです」と語りました。

『Mother Earth』の背景

ファジル・サイが作曲したピアノ協奏曲『Mother Earth』は、地球が直面している生態系の劇的な変化と、急加速する気候変動への警鐘を鳴らす作品です。この楽曲は、水、空気、火、大地という自然の四要素からインスピレーションを得ており、各要素の相互関係を描き出しています。サイは、この曲が私たちに自然との結びつきを思い出させるものであると強調しています。

プログラムにはこの協奏曲に加え、ドビュッシーの『ラ・メール（海）』やエイトル・ヴィラ＝ロボスの『アマソンの森-組曲 II』も含まれ、自然にまつわるテーマや問題が幅広く取り上げられました。

ウーマンズパビリオンとカルティエ

カルティエは、万博における「ウーマンズパビリオン」にも積極的に関与しており、「ともに生き、ともに輝く未来へ」という理念のもと、すべての人々が尊敬し合える社会を目指しています。女性の視点を通じた公平で持続可能な未来の実現を呼びかけるこのパビリオンに、参加者は大きな期待を寄せています。

まとめ

このコンサートは、単なる音楽イベントではなく、私たちの生きる環境への新たな気づきをもたらす重要な機会でした。カルティエのコミットメントによって、音楽と自然の調和が見事に表現され、人々の心に深く刻まれたことでしょう。今後の展開に注目が集まります。

フォトクレジット

すべての写真は Yuta Kono © Cartier 撮影協力：ザ・シンフォニーホール

お問い合わせ

カルティエ カスタマーサービスセンター 0120 1847 00
ウーマンズパビリオン公式サイト
カルティエ公式サイト
2025年大阪・関西万博公式サイト

MotherEarthConcert #WomensPavilion
#Expo2025



関連リンク

サードベディア百科事典: カルティエ 万博 MOTHER EARTH

Publication/Platform: Figaro japon (Print &WEB)
Issue-Date: June 2025
Content: EXPO / CWI / MOTHER EARTH Concert (4 pages)

CULTURE



ファジル・サイ / Fazil Say

トルコ出身のピアニスト・作曲家。アンカラ国立音楽院でピアノと作曲を学び、17歳でデュッセルドルフのシューマン音楽院に留学。その後、ベルリン音楽院を経て1994年ヤング・コンサート・アーティスト国際オーディションで優勝。オープンでエキサイティングなコンサートに定評がある。

けるかどうか。20世紀初頭、自然の音を聴き始めた音楽家たちが登場しましたが、今回の公演プログラムに入っているクロード・ドビュッシーの『海』とエイトル・ヴィラ＝ロボスの『アマゾンの森』はその代表です。そして21世紀、環境への意識が高まった現代において、ファジルの音楽は大自然への畏れを見事に表現しました」

「マザーアース」は大自然に対する人間の責任感に言及している、とシモーネはこう続ける。

「クラシック音楽は長らく人間の感情について語ってきたけれど、私は自然が人間に何を語りかけているのか?を表現したいのです」

アーティストディレクターとしてのシモーネに対して全幅の信頼を寄せるファジルは、「キャリアを始めた30年前、指揮者は男性しかいなかったが、いまは女性もどんどん増えている。なかでもシモーネは、世界的に重要な存在です」と語る。

この日、リハーサルから「マザーアース」を鑑賞した反田恭平は、ひとつの協奏曲が生まれる瞬間を目撃し、感銘を受けた。

「世界初演というのは作曲家にとって緊張する瞬間。絶対成功させるといふ熱意を感じました」と反田。リハーサルではファジルが最後まで最終章にこだわって指示を出していた点に触れ、「ティンパニーのマレット（パチ）の使い分けについて変更を加えたことで、本番ではより曲の輪郭がはっきりして野性味を帯びたものになっていた。クレッシェンドの指示を出し、曲に風を吹き込んでいたのも印象的です」と話す。

コンサート前にウーマンズ バビリオンにも足を運んだ反田はこう語る。

「女性の活躍を支援することは、若い世代を応援することにも繋がると思っています。僕がこの夏ザルツブルク音楽祭に30歳という年齢で出演が可能になったのも、そのような風潮と無縁ではない。才能は自分のためではなく人のために使うもの。地球規模で音楽活動に取り組みたいと思います」



「マザーアース」のほか、シモーネ・メネセスが構成したふたつの演目が、大阪のザ・シンフォニーホールにて大阪フィルハーモニー交響楽団によって演奏され、大きな拍手が起った。撮影協力：ザ・シンフォニーホール



反田恭平 / Kyohei Sorita

2021年第18回ショパン国際ピアノコンクールで日本人歴代最高位となる第2位に。国内外の主要オーケストラと共演する一方、マネジメント会社NEXUSとJapan National Orchestraの代表も務める。25年8月のザルツブルク音楽祭でアジア人史上初となるソリスト兼指揮者での“弾き振り”のデビューが予定されている。

時計「サントス デュモン」(PG、H43.5 × W31.4mm、クォーツ) ¥2,138,400 / カルティエ (カルティエ カスタマー サービスセンター) スーツ ¥1,094,500、シャツ ¥101,200、チーフ ¥44,000 / 以上ブルネロ クチネリ (ブルネロ クチネリ ジャパン) その他 / スタイリスト私物

大阪に集結した、カルティエの未来の礎。

開催中の大阪・関西万博にウーマンズ バビリオンを共同出展するカルティエ。独創的なクリエイションで世界を魅了するメゾンの、芸術・文化の振興と公平な社会の実現に向けた取り組みとは? 5月に大阪で開催された3つのイベントを紹介する。

photography: Ami Harita (P106-107), Victor Picon ©Cartier (P108) text: Junko Kubodera styling: Mariko Kawada (Kyohei Sorita) hair & makeup: Mayumi Murata (Kyohei Sorita)

Mother Earth Concert

音楽を通じて、母なる大地の声を紡ぐ。

多くの音楽家を支援するカルティエが5月23日、ウーマンズ バビリオンの出展を記念したコンサートを開催。これに合わせて新曲「マザーアース」を作曲したファジル・サイ、指揮者のシモーネ・メネセス、コンサートを鑑賞したピアニストの反田恭平に話を聞いた。



世界的ピアニストで作曲家でもあるファジル・サイはカルティエの依頼を受けてピアノ協奏曲「マザーアース」を作曲。その世界初演が大阪のザ・シンフォニーホールで行われた。公演に臨むファジルはこう意気込みを語った。

「これまでに自然をテーマにいくつも作曲を行ってききましたが、本作品は最も重要な曲になるでしょう」

作品は「大地」「森」「海」「川」の4つのテーマで構成され、ダイナミックな地球の鼓動、森に棲む鳥や動物の声、海と川を想起させる水の表現が次々と現れ、観客を圧倒する。地球環境に強い関心を寄せるファジルは2019年、祖国トルコのイダ山で、金の発掘による大規模森林伐採の反対運動に参加。森の中で行ったコンサートは約5万人の観客を動員し、伐採を食い止めるムーブメントのひとつとなった。指揮者のシモーネ・メネセスも祖国ブラジルのアマゾンに深い関心を寄せ、こう語る。

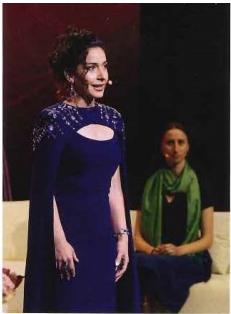
「大自然はいつも歌を歌っています。問題は私たち人間がその歌に耳を傾

シモーネ・メネセス / Simone Menezes
故郷であるブラジルのサンパウロで指揮を学び、その後バリのエコール・ノルマル音楽院に入学。2019年ウィーンで開催されたMawona指揮者コンクールで第2位を受賞。自身が設立したEnsemble Kを率い、ヨーロッパ各地で公演を行う。テーマ性のあるプロジェクトを精力的に企画。

心を寄せるファジルは2019年、祖国トルコのイダ山で、金の発掘による大規模森林伐採の反対運動に参加。森の中で行ったコンサートは約5万人の観客を動員し、伐採を食い止めるムーブメントのひとつとなった。指揮者のシモーネ・メネセスも祖国ブラジルのアマゾンに深い関心を寄せ、こう語る。

「大自然はいつも歌を歌っています。問題は私たち人間がその歌に耳を傾

Publication/Platform: Figaro japon (Print &WEB)
Issue-Date: June 2025
Content: EXPO / CWI / MOTHER EARTH Concert (4 pages)



アルメニアのマリアム・トロスヤンは、モバイルとAIを活用したエコシステムにより性暴力のサイバーを支援する。

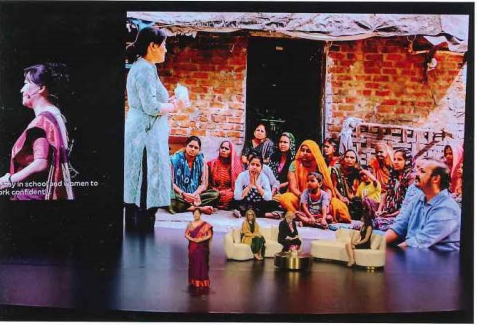
カルティエ ウーマンズ イニシアチブ インパクト アワードを受賞した9名。左からクレセ・ウェズリング (英国)、クリスティン・カグツ (インド)、ナミタ・パンカ (インド)、ジャッキー・ステンソン (インド)、マリム・トロスヤン (アルメニア)、イヴェット・イシムウエ (ルワンダ)、ケイトリン・ドルカート (ケニア)、トレシー・オルーク (アイルランド)、ラマ・ケヤリ (ヨルダン)。

Cartier Women's Initiative

社会を変える女性起業家の力の源となるコミュニティ。

グローバルな女性社会起業家の支援プログラムであるカルティエ ウーマンズ イニシアチブ。大阪で開かれたインパクト アワードの授賞式には世界中で活躍する女性たちが集結。目の前で起きている問題にまっすぐに切り込む女性たちのパワーに、会場は感動と賞賛の拍手を送った。

下左：インドを拠点に女性エンパワメントに取り組むクリスティン・カグツによる映像とスピーチ。下右：サンディ・トクスヴィグ (中央左) を囲んで和やかな雰囲気の中、受賞者とともに洞察に満ちた会話が繰り広げられた。



ウーマンズ パビリオン開会セレモニー翌日の5月22日、堺市民芸術文化ホールでカルティエ ウーマンズ イニシアチブのインパクト アワード授賞式が行われた。「変革をもたらすチカラ」というテーマのもと、これまでカルティエ ウーマンズ イニシアチブの受賞者に選ばれたフェローから、「地球の保護」「生活の向上」「機会の創出」の3つのカテゴリーでインパクトを生み出した9名の社会起業家を選出。いずれの受賞者も国連のSDGs (持続可能な開発目標) に基づいた事業を展開しており、全体で17の目標を網羅したものとなった。

授賞式は日本人アーティストによるダンスと音楽のパフォーマンスに続き、ショートフィルム『ともに世界を形作る』の上映で幕を開けた。ホストはキャスター、作家として活躍し、ジェンダー平等の提唱者でもあるサンディ・トクスヴィグ。世界中から駆けつけた受賞者の功績を、高揚感と愛情を持って称えた。一例を挙げると、バナナ繊維を原料とした生分解性生理用品の製造を通して月経衛生管理の持続可能な解決策を提供し、女性エンパワメントに取り組むインドのクリスティン・カグツ、東アフリカ全域で救急車の応答時間を大幅に短縮する集中型緊急対応プラットフォームを開発したケニアのケイトリン・ドルカート、中東全域の子どものアラビア語識字能力を向上させるデジタルプラットフォームを開発し、学習貧困の改善に取り組むヨルダンのラマ・ケヤリらの活動が紹介された。

2006年に設立されたカルティエ ウーマンズ イニシアチブは、ビジネスの力で有意義な変化をもたらす女性起業家たちを表彰・支援しており、これまで66カ国のフェローに、1,200万ドルを超える助成金を提供。500名以上のチェンジメーカーからなるグローバルネットワークを構築してきた。国や状況を超えて活躍する女性の活気に満ちた授賞式は、世界の未来を明るく照らしていた。

Women's Pavilion

個の物語から始まる、私たちの連帯とこれからの世界。

他者の物語に耳を傾け、自ら考えることを呼びかけながら課題解決に向けた対話や繋がりをもたらすウーマンズパビリオン。開会セレモニーでは、世界中のチェンジメーカーたちが「女性が輝けば、人類・社会全体が輝く」というパビリオンの信念を分かち合った。



開会セレモニーのフィナーレには、明者の星アンナ、和太鼓奏者、さまざまな国籍のシンガーたちにより、調和と再生を称えるパフォーマンスが披露された。

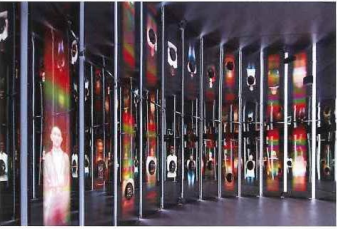
現在大阪・関西万博に出展中の「ウーマンズ パビリオン in collaboration with Cartier」。内閣府、経済産業省、2025年日本国際博覧会協会とのパートナーシップによって実現したこのパビリオンは、ジェンダー平等に光を当て、共同体としての対話を促すものだ。1階の展示スペース入口で、来場者は自分の名前を声に出して告げ、バックグラウンドの異なる3人の女性の物語に耳を傾けながら、彼女たちの人生の一部を追体験する。国を超えて響き合う女性たちの声はやがて大きなうねりとなり、最後はこれまでに積み重ねられた来場者の声に勇気もらいながらパビリオンを後にする。

2階の「WA」スペースは6カ月にわたる万博期間中、誰でも参加できる150以上のセッションを予定(要予約)。ジェンダーイノベーション、芸術文化といった6つのテーマに沿って、さまざまなゲストとともに考え、未来に向けて語り合う場所となっている。

5月21日には開会セレモニーが開かれ、会場のEXPOホールには、コンゴ民主共和国出身の詩人で作家のJJ・ボラや黒柳徹子をはじめ、国際色豊かな顔ぶれが登場。それぞれのライフストーリーに触れながら、公平で思いやりのある世界に向けたコラボレーションの大切さを訴えた。カルティエ ジャパン プレジデント&CEOの宮地純は会場に力強く語りかけた。「一緒に、もっと強くなれる。そして変化を生み出せる」



来場者は、小説家の吉本ばなな、スウェーデン出身の詩人・アクティビストのエムティハル・マフムード、メキシコの環境保護活動家シェ・バステイダの物語を追体験できる。



上図：2階へ上がると、季節の植物が織りなす美しい中庭が現れる。この庭を挟み、「WA」スペースへと繋がる。上：展示のフィナーレには、世界を変えるさまざまな分野で活動するチェンジメーカーたちが集う空間に訪れる。右：来場者がまず通されるのは鏡の間。ここで自分の名前を鏡に伝えることから物語が始まる。

Publication/Platform: Figaro japon (Print &WEB)

<https://madamefigaro.jp/culture/250620-cartier-womenspavilion.html>

Issue-Date: June 20, 2025

Content: EXPO / CWI / MOTHER EARTH Concert



大阪に集結した、カルティエの未来の礎。

Culture 2025.06.20

開催中の大阪・関西万博にウーマンズ パビリオンを共同出展するカルティエ。独創的なクリエイションで世界を魅了するメソンの、芸術・文化の振興と公平な社会の実現に向けた取り組みとは？ 5月に大阪で開催された3つのイベントを紹介する。

1

Mother Earth Concert

音楽を通じて、母なる大地の声を紡ぐ。

多くの音楽家を支援するカルティエが5月23日、ウーマンズ パビリオンの出展を記念したコンサートを開催。これに合わせて新曲「マザーアース」を作曲したファジル・サイ、指揮者のシモーネ・メネセス、コンサートを鑑賞したピアニストの反田恭平に話を聞いた。



「マザーアース」のほか、シモーネ・メネセスが構成したふたつの演目が、大阪のザ・シンフォニーホールにて大阪フィルハーモニー交響楽団によって演奏され、大きな拍手が起こった。撮影協力：ザ・シンフォニーホール
photography: Yuta Kono ©Cartier

世界的ピアニストで作曲家でもあるファジル・サイはカルティエの依頼を受けてピアノ協奏曲「マザーアース」を作曲。その世界初演が大阪のザ・シンフォニーホールで行われた。公演に臨むファジルはこう意気込みを語った。



ファジル・サイ / Fazil Say

トルコ出身のピアニスト・作曲家。アンカラ国立音楽院でピアノと作曲を学び、17歳でデュッセルドルフのシューマン音楽院に留学。その後、ベルリン音楽院を経て1994年ヤング・コンサート・アーティスト国際オーディションで優勝。オープンでエキサイティングなコンサートに定評がある。photography: Yuta Kono ©Cartier

「これまでに自然をテーマにいくつも作曲を行ってきましたが、本作品は最も重要な曲になるでしょう」

作品は「大地」「森」「海」「川」の4つのテーマで構成され、ダイナミックな地球の鼓動、森に棲む鳥や動物の声、海と川を想起させる水の表現が次々と現れ、観客を圧倒する。地球環境に強い関心を寄せるファジルは2019年、祖国トルコのイダ山で、金の発掘による大規模森林伐採の反対運動に参加。森の中で行ったコンサートは約5万人の観客を動員し、伐採を食い止めるムーブメントのひとつとなった。指揮者のシモーネ・メネセスも祖国ブラジルのアマゾンに深い関心を寄せ、こう語る。

Publication/Platform: Figaro japon (Print &WEB)

<https://madamefigaro.jp/culture/250620-cartier-womenspavilion.html>

Issue-Date: June 20, 2025

Content: EXPO / CWI / MOTHER EARTH Concert



シモーネ・メネセス/Simone Menezes

故郷であるブラジルのサンパウロで指揮を学び、その後パリのエコールノルマル音楽院に入学。2019年ウィーンで開催されたMawona指揮者コンクールで第2位を受賞。自身が設立したEnsemble Kを率い、ヨーロッパ各地で公演を行う。テーマ性のあるプロジェクトを精力的に企画。photography: Ami Harita

「大自然はいつも歌を歌っています。問題は私たち人間がその歌に耳を傾けるかどうか。20世紀初頭、自然の音を聴き始めた音楽家たちが登場しましたが、今回の公演プログラムに入っているクロード・ドビュッシーの『海』とエイトル・ヴィラ＝ロボスの『アマゾン森の森』はその代表です。そして21世紀、環境への意識が高まった現代において、ファジルの音楽は大自然への畏れを見事に表現しました」

「マザーアース」は大自然に対する人間の責任感に言及している、とシモーネはこう続ける。

「クラシック音楽は長らく人間の感情について語ってきたけれど、私は自然が人間に何を語りかけているのか？を表現したいのです」

アーティストディレクターとしてのシモーネに対して全幅の信頼を寄せるファジルは、「キャリアを始めた30年前、指揮者は男性しかいなかったが、いまは女性もどんどん増えている。なかでもシモーネは、世界的に重要な存在です」と語る。



反田義平/Kyohel Sorita

2021年第18回ショパン国際ピアノコンクールで日本人歴代最高位となる第2位に。国内外の主要オーケストラと共演する一方、マネジメント会社NEXUSとJapan National Orchestraの代表も務める。25年8月のザルツブルク音楽祭でアジア人史上初となるソリスト兼指揮者での“弾き振り”のデビューが予定されている。photography: Ami Harita
時計「サントス デュモン」(PG、H43.5×W31.4mm、クォーツ) ¥2,138,400/カルティエ(カルティエカスタマーサービスセンター) スーツ¥1,094,500、シャツ¥101,200、チーフ¥44,000/以上ブルネロ クチネリ(ブルネロ クチネリ ジャパン) その他/スタイリスト私物

「世界初演というのは作曲家にとって緊張する瞬間。絶対成功させるという熱意を感じました」と反田。リハーサルではファジルが最後まで最終章にこだわって指示を出していた点に触れ、「ティンパニーのマレット(バチ)の使い分けについて変更を加えたことで、本番ではより曲の輪郭がはっきりして野性味を帯びたものになっていた。クレッシェンドの指示を出し、曲に風を吹き込んでいたのも印象的です」と話す。

コンサート前にウーマンズ パビリオンにも足を運んだ反田はこう語る。

「女性の活躍を支援することは、若い世代を応援することにも繋がると 생각합니다。僕がこの夏ザルツブルク音楽祭に30歳という年齢で出演が可能になったのも、そのような風潮と無縁ではない。才能は自分のためでなく人のために使うもの。地球規模で音楽活動に取り組みたいと思います」

2

Women's Pavilion

個の物語から始まる、私たちの連帯とこれからの世界。

他者の物語に耳を傾け、自ら考えることを呼びかけながら課題解決に向けた対話や繋がりをもたらすウーマンズ パビリオン。開会セレモニーでは、世界中のチェンジメーカーたちが「女性が輝けば、人類・社会全体が輝く」というパビリオンの信念を分かち合った。

Publication/Platform: Figaro japon (Print &WEB)

<https://madamefigaro.jp/culture/250620-cartier-womenspavilion.html>

Issue-Date: June 20, 2025

Content: EXPO / CWI / MOTHER EARTH Concert



来場者は、小説家の吉本ばなな、スーダン出身の詩人・アクティビストのエムティハル・マフムード、メキシコの環境保護活動家シエ・バスティダの物語を追体験できる。 photography: Victor Picon ©Cartier

現在大阪・関西万博に出展中の「ウーマンズ パビリオン in collaboration with Cartier」。内閣府、経済産業省、2025年日本国際博覧会協会とのパートナーシップによって実現したこのパビリオンは、ジェンダー平等に光を当て、共同体としての対話を促すものだ。1階の展示スペース入口で、来場者は自分の名前を声に出して告げ、バックグラウンドの異なる3人の女性の物語に耳を傾けながら、彼女たちの人生の一部を追体験する。国を超えて響き合う女性たちの声はやがて大きなうねりとなり、最後はこれまでに積み重ねられた来場者の声に勇気をもらいながらパビリオンを後にする。



来場者がまず通されるのは鏡の間。ここで自分の名前を鏡に伝えることから物語が始まる。 photography: Victor Picon ©Cartier



展示のフィナーレには、世界を変えるさまざまな分野で活動するチェンジメーカーたちが集う空間に誘われる。 photography: Victor Picon ©Cartier



2階へ上がると、季節の植物が織りなす美しい中庭が現れる。この庭を挟み、「WA」スペースへと繋がる。 photography: Victor Picon ©Cartier WAスペースのセッションは、以下URLより予約できる：
<https://www.expo2025.or.jp/events> (EXPO 2025 VISITORS)
<https://register.cartier.com/ja/wa-2025> (ウーマンズ パビリオン公式サイト)

2階の「WA」スペースは6カ月にわたる万博期間中、誰でも参加できる150以上のセッションを予定（要予約）。ジェンダーやイノベーション、芸術文化といった6つのテーマに沿って、さまざまなゲストとともに考え、未来に向けて語り合う場所となっている。



開会セレモニーのフィナーレには、唄者の里アンナ、和太鼓奏者、さまざまな国籍のシンガーたちにより、調和と再生を称えるパフォーマンスが披露された。 photography: Victor Picon ©Cartier

Publication/Platform: Figaro japon (Print &WEB)

<https://madamefigaro.jp/culture/250620-cartier-womenspavilion.html>

Issue-Date: June 20, 2025

Content: EXPO / CWI / MOTHER EARTH Concert

5月21日には開会セレモニーが開かれ、会場のEXPOホールには、コンゴ民主共和国出身の詩人で作家のJJ・ボラや黒柳徹子をはじめ、国際色豊かな顔ぶれが登場。それぞれのライフストーリーに触れながら、公平で思いやりのある世界に向けたコラボレーションの大切さを訴えた。カルティエ ジャパン プレジデント&CEOの宮地純は会場に力強く語りかけた。

「一緒なら、もっと強くなれる。そして変化を生み出せる」



見る YouTube

Cartier

3

Cartier Women's Initiative

社会を変える女性起業家の力の源となるコミュニティ。

グローバルな女性社会起業家の支援プログラムであるカルティエ ウーマンズ イニシアチブ。大阪で開かれたインパクト アワードの授賞式には世界中で活躍する女性たちが集結。目の前で起きている問題にまっすぐに切り込む女性たちのパワーに、会場は感動と賞賛の拍手を送った。



カルティエ ウーマンズ イニシアチブ インパクト アワードを受賞した9名。左からクレッセ・ウェズリング（英国）、クリスティン・カゲツ（インド）、ナミタ・バンカ（インド）、ジャッキー・ステンソン（インド）、マリラム・トロスヤン（アルメニア）、イヴェット・イシムウェ（ルワンダ）、ケイトリン・ドルカート（ケニア）、トレシー・オルーク（アイルランド）、ラマ・ケヤリ（ヨルダン）。 photography: Sina ENGIN ©Cartier

ウーマンズ パビリオン開会セレモニー翌日の5月22日、堺市民芸術文化ホールでカルティエ ウーマンズ イニシアチブのインパクト アワード授賞式が行われた。「変革をもたらすチカラ」というテーマのもと、これまでカルティエ ウーマンズ イニシアチブの受賞者に選ばれたフェローから、「地球の保護」「生活の向上」「機会の創出」の3つのカテゴリーでインパクトを生み出した9名の社会起業家を選出。いずれの受賞者も国連のSDGs（持続可能な開発目標）に基づいた事業を展開しており、全体で17の目標を網羅したものとなった。



インドを拠点に女性エンパワメントに取り組むクリスティン・カゲツによる映像とスピーチ。 ©Cartier



サンディ・トクスヴィグ（中央左）を囲んで和やかな雰囲気の中、受賞者とともに洞察に満ちた会話が繰り広げられた。 ©Cartier

Publication/Platform: Figaro japon (Print &WEB)

<https://madamefigaro.jp/culture/250620-cartier-womenspavilion.html>

Issue-Date: June 20, 2025

Content: EXPO / CWI / MOTHER EARTH Concert

授賞式は日本人アーティストによるダンスと音楽のパフォーマンスに続き、ショートフィルム『ともに世界を形づくる』の上映で幕を開けた。ホストはキャスター、作家として活躍し、ジェンダー平等の提唱者でもあるサンディ・トクスヴィグ。世界中から駆けつけた受賞者の功績を、高揚感と愛情を持って称えた。一例を挙げると、バナナ繊維を原料とした生分解性生理用品の製造を通して月経衛生管理の持続可能な解決策を提供し、女性エンパワメントに取り組むインドのクリスティン・カゲツ、東アフリカ全域で救急車の応答時間を大幅に短縮する集中型緊急対応プラットフォームを開発したケニアのケイトリン・ドルカート、中東全域の子どもたちのアラビア語識字能力を向上させるデジタルプラットフォームを築き、学習貧困の改善に取り組むヨルダンのラマ・ケヤリらの活動が紹介された。

2006年に設立されたカルティエ ウーマンズ イニシアチブは、ビジネスの力で有意義な変化をもたらす女性起業家たちを表彰・支援しており、これまで66カ国のフェローに、1,200万ドルを超える助成金を提供。500名以上のチェンジメーカーからなるグローバルネットワークを構築してきた。国や状況を超えて活躍する女性の活気に満ちた授賞式は、世界の未来を明るく照らしていた。

問い合わせ先：

カルティエ カスタマー サービスセンター

0120-1847-00（フリーダイヤル）

<https://womenspavilion.cartier.com/ja>



アルメニアのマリアム・トロスヤンは、モバイルとAIを活用したエコシステムにより性暴力のサバイバーを支援する。 ©Cartier

JAPAN

Publication/Platform: Figaro japon (Print &WEB)

Issue-Date: June 2025

Content: EXPO / CWI / MOTHER EARTH Concert

The Foundation of Cartier's Future, Gathered in Osaka.

Cartier is co-exhibiting the Women's Pavilion at the current Osaka, Kansai Expo. How is this Maison, known for captivating the world with innovative creations, working to promote art and culture and contribute to a more equitable society? Here, we showcase three events held in May in Osaka.

Narrating the voice of Mother Earth through music.

Cartier has supported a large number of musicians, and on May 23, it held a concert to commemorate the opening of the Women's Pavilion. We took the opportunity to speak with Fazil Say, composer of the new concerto "Mother Earth," conductor Simone Menezes, and pianist Kyohei Sorita, who observed the concert.

World-renowned pianist and composer Fazil Say created the piano concerto "Mother Earth" commissioned by Cartier. Its world premiere was performed at The Symphony Hall in Osaka. Fazil spoke of his enthusiasm for the performance:

"Although I have created a number of works with themes relating to nature, I believe this will be the most important one of all."

The work is composed of four themes: earth, forest, sea, and river. It captivates the audience with a series of sections that express the dynamic pulse of Earth, voices of birds and other animals in the forest, and the waters of seas and rivers. Fazil cares deeply about the natural environment. In 2019, he participated in demonstrations against large-scale deforestation caused by gold mining in the Ida Mountains of his native Turkey. He gave a concert in a forest that attracted around 50,000 people, and it became one of the movements that stopped deforestation.

Conductor Simone Menezes is also deeply concerned about the Amazon forest in her home country of Brazil.

JAPAN

Publication/Platform: Figaro japon (Print &WEB)

Issue-Date: June 2025

Content: EXPO / CWI / MOTHER EARTH Concert

“Nature is always singing songs. The question is whether or not we humans listen. At the beginning of the 20th century, a number of musicians began listening to the sounds of nature. In the program of this performance are some major examples of that: Claude Debussy’s ‘La Mer’ and Heitor Villa-Lobos’ ‘Floresta do Amazonas.’ Now in the 21st century, at a time when environmental awareness is rising, Fazil’s music has done a tremendous job of conveying a sense of awe toward nature.”

“Mother Earth” also alludes to humanity’s responsibility towards nature. Simone continues:

“Classical music has long portrayed human emotions, but I want to portray what nature is trying to communicate to humans.”

Fazil has placed his full trust in Simone as artistic director. “When I began my career 30 years ago, all conductors were men. But now, the number of female conductors is growing, and among them, Simone is a prominent figure on the global stage.”

On this day, Kyohei Sorita watched “Mother Earth” from its rehearsal and was deeply moved after witnessing the birth of a concerto.

“The world premiere of a musical piece is a tense moment for its composer. I could feel Fazil’s passion for ensuring that this would be a success, no matter what,” Sorita stated. He touched on how particular Fazil was about the final movement during rehearsal, and how he directed it right up to the very end.

“He changed how the different timpani mallets were used, which gave the piece a more defined shape and a wild, untamed edge in the actual performance. Another thing that stood out was how he called for a crescendo, which brought fresh energy into the piece.”

Sorita visited the Women’s Pavilion before the concert and commented, “I believe that supporting women’s advancement also empowers the next generation. The fact that I’m able to perform at the Salzburg Festival this summer at the age of 30 is also connected to this social shift. Talent should be used not for yourself, but for others. This is why I want to be involved in music on a global scale.”

JAPAN

Publication/Platform: Figaro japon (Print &WEB)

Issue-Date: June 2025

Content: EXPO / CWI / MOTHER EARTH Concert

Women's Pavilion

Our solidarity and the world of the future, starting with stories of the individual.

The Women's Pavilion encourages people to listen to others' stories and reflect on their own, while fostering dialogue and collaboration to address challenges. At the opening ceremony, changemakers from around the world shared in the pavilion's belief that "when women thrive, humanity thrives."

The Women's Pavilion in collaboration with Cartier is on exhibit at the Osaka World Expo. Realized through a partnership with the Cabinet Office, the Ministry of Economy, Trade and Industry, and the Japan Association for the 2025 World Exposition, it shines a light on gender equality and promotes collective dialogue. At the entrance to the exhibition space on the first floor, visitors are encouraged to share their names out loud and vicariously experience the lives of three women from different backgrounds by listening to their stories. Echoing across borders, the voices of these women coalesce into a large wave. At the end of the experience, visitors exit the pavilion empowered and encouraged by a chorus of voices left behind by those who came before them.

Over six months during the EXPO, the "WA" space on the second floor will host more than 150 sessions open to everyone (reservation required). The programs will follow six themes, including gender, innovation, and arts and culture, and will provide a space for the public to consider and discuss the future together with guests.

The pavilion's opening ceremony was held on May 21, and the EXPO Hall featured a wide variety of international figures, including the poet and writer JJ Bola, originally from the Democratic Republic of the Congo, and Tetsuko Kuroyanagi. They touched on their life stories while championing the importance of global collaboration that is truly fair and compassionate. Cartier Japan President & CEO June Miyachi delivered a powerful speech at the event.

"We can be stronger together. And we can create change."

JAPAN

Publication/Platform: Figaro japon (Print &WEB)

Issue-Date: June 2025

Content: EXPO / CWI / MOTHER EARTH Concert

Cartier Women's Initiative

A community that serves as a source of power for women entrepreneurs transforming the world.

The Cartier Women's Initiative is a support program for international women social entrepreneurs. The Impact Awards ceremony held in Osaka brought together talented women from around the world. It was filled with excitement and applause in admiration of the strength of these women who face the problems before them head-on.

On May 22, the day after the Women's Pavilion opening ceremony, the Cartier Women's Initiative Impact Awards Ceremony was held at the Performing Arts Center in Sakai City. Under the theme "Forces for Good," nine social entrepreneurs were selected from the Cartier Women's Initiative fellows for their impact in three categories: preserving the planet, improving lives, and creating opportunities. Each awardee leads a business aligned with the UN's SDGs, collectively addressing all 17 goals.

The ceremony began with dance and musical performances by Japanese artists, followed by a screening of the short film "Shaping the Future." It was hosted by Sandi Toksvig, an author, broadcaster, and advocate for gender equality. With fondness and elation, she celebrated the achievements of the award winners who had gathered from around the world. Some examples include Kristin Kagetsu from India, who empowers women by providing a sustainable solution to menstrual products with biodegradable sanitary pads made of banana fibers; Caitlin Dolkart from Kenya, who developed a centralized emergency response platform that has vastly reduced ambulance response times throughout East Africa; and Rama Kayyali from Jordan, who created a digital platform for children throughout the Middle East to improve Arabic language literacy and tackle educational poverty.

JAPAN

Publication/Platform: Figaro japon (Print &WEB)

Issue-Date: June 2025

Content: EXPO / CWI / MOTHER EARTH Concert

Established in 2006, the Cartier Women's Initiative recognizes and supports women entrepreneurs who use the power of business to enact meaningful change. It has fellows from 66 countries and has provided grant funding totaling over \$12 million. It has established a global network of over 500 changemakers. The ceremony was filled with the energy of these women who create change across borders and circumstances, and shone a hopeful light on the future.

Publication/Platform: Richesse (Print)
Issue-Date: June 2025
Content: EXPO / MOTHER EARTH concert (4 pages)



1「YOUR HAND」では、黒柳徹子さんをはじめ世界で活躍する14人が、行動を促す希望のメッセージを共有。
2 組子にインスピレーションを得た抜け感のある構造のファサード。さりげなく施された植栽が調和。 3 来場者は3つの扉のうちの一つに入り、一人の女性の人生を追体験します。

パビリオン製作に携わった二人



Profile
エズ・デヴリン(左)
Es Devlin
アーティスト、舞台美術家。イギリス生まれ。ピヨンセやU2などのポップスターからも絶大な支持を受ける。光、音楽、言語を組み合わせた彫刻作品を制作し、気候変動の問題も発信する。イギリスのテート・モダンなどに作品を展示。
永山祐子(右)
Yuko Nagayama
建築家。青木淳建築計画事務所を経て、2002年に永山祐子建築設計を設立。主な作品に、「丘のある家」「女神の森セントラルガーデン」「ドバイ国際博覧会日本館」などがある。大阪・関西万博では、パナソニックパビリオンも担当。

あり、「各パビリオンがさまざまな楽器として、世界という舞台で6カ月にわたりメッセージを発信する場」と捉えています」と、デヴリンさん。来場者が小説家・吉本ばななさんを含む3人の女性の人生に触れる体験ができるなど、没入空間を提供。ジェンダーの問題を自分ごととして捉え、その理解が具体的な行動につながることを目指します。



Cartier
普遍の美を未来に受け継ぐために
責任あるラグジュアリー

カルティエは、美しいクリエイションにとどまらず、ジェンダー平等や環境保護といった社会課題にも積極的に取り組む責任あるメゾンです。より良い未来の実現を目指すその思いは、大阪・関西万博で出展しているウーマンズ パビリオンや、近年の芸術・文化活動にも色濃く表れています。

Text & Editing / Kyoko Takahashi

持続可能な未来に向けて女性の可能性をたなえる
カルティエが、内閣府、経済産業省、日本国際博覧会協会と共同出展している「ウーマンズ パビリオン」に生き、ともに輝く未来へ」をコンセプトに、全ての人が平等に生き、力を発揮できる持続可能な社会の実現を目指します。会場では、女性たちの体験や視点を通して、ジェンダー平等の重要性と、その実現に向けた気付きを得ることができます。
エントランスを抜けると、松や花々で彩られた前庭が現れ、会場のにぎわいから逃れるオアシスのよう。その豊かな自然と見事に調和するのが、建築家・永山祐子さんが手掛けたファサードで、2020年ドバイ万博日本館のものをリユースしています。「町家のように通り庭や中庭を設けて内外を緩やかにつなげ、大阪周辺の山からの樹木を植えて、緑あふれる生命の庭を造りました」と、永山さん。前庭の奥にはパビリオン階の「UPPER GARDEN」の木々と共に、万博終了後は大阪の山々に返されます。
館内のインスタレーションは、アーティストのエズ・デヴリンさんがキュレーション。「私にとって万博は、「ユニークな楽器の集合体」で

Publication/Platform: Richesse (Print)
Issue-Date: June 2025
Content: EXPO / MOTHER EARTH concert (4 pages)



大阪フィルハーモニー交響楽団が演奏。世界初演となったピアノ協奏曲「Mother Earth」の他、クロード・ドビュッシーの「海」とエイトル・ヴェーロホフの「マゾンの森」を奏でました。

撮影協力 / 大阪フィルハーモニー交響楽団



Profile
シモーネ・メネセス
Simone Meneses

アーティストディレクター、指揮者。ブラジル出身。サンパウロで指揮を学んだ後、パリのエコール・ノルマル音楽院へ。2019年MAWOMA指揮者コンクールで第2位。香港指揮者として高く評価され、世界のオーケストラと共演。



Profile
ファジル・サイ
Faal Sey

ピアニスト、作曲家。トルコ出身。ベルリン音楽院で学び、1994年のヤング・コンサート・アーティスト国際オーディションで優勝。以来、世界一連のオーケストラと定期的に舞台を共にし、音楽祭などでも演奏している。

ウーマンズ パビリオン
in collaboration with Cartierを祝福
大地と未来をたたえる
一夜限りのコンサート
「Mother Earth」

責任あるメゾンとして、アート支援にも尽力するカルティエ。大阪で開かれたコンサート「Mother Earth」は、その精神が色濃く表れた特別な舞台となりました。



音楽やアート、映画へ愛とサポートを注ぐカルティエ。4 芸術支援の核となるのがカルティエ現代美術財団。2025年10月にパリ中心部のパレ・ロワイヤル広場に移動オープン。5 ヴェネツィア国際映画祭をメインスポンサーとして支援する他、活動は多岐にわたります。

心に響く音楽の力で地球の大切さを表現

コンサートでは3曲が披露され、中でも注目を集めたのが世界初演となるピアノ協奏曲「Mother Earth」。鬼才と名高いファジル・サイさんが大阪フィルハーモニー交響楽団とともに演奏しました。実はこの曲は、カルティエに依頼されてファジルさんが作曲したもの。パビリオンのテーマの一つ「大いなる大地」にちなんで、気候危機を訴える作品を生み出しました。

「この曲は、大地、森、海、川などといったアツツの小さなパートで構成されており、生命感に満ちている箇所もあれば、ほとんど死に絶えている箇所もある」と、ファジルさん。多彩な楽器が自然の音色を再現し、自然の美しさや優しさ、厳しさを描き出すとともに、地球の悲劇的な叫びも奏でています。

コンサートでは、ファジルさんは足を踏みならしてリズムを取るなど、情感豊かに演奏しました。「私たちは常に、全ての人にとって民主的で平和な地球であることを願っています。それこそが、私たちが芸術に精いつばい取り組む理由です」とファジルさん。コンサートは観客のスタンディングオペレーションに包まれ、大盛況のうちに幕を閉じました。

芸術への情熱を共有し多彩な才能を後押し

カルティエは、クラフツマンシップからアート、建築に至るまで、クリエーションの力を尊重し、多様な才能を支援。音楽も芸術と文化の重要な要素と捉え、音楽家コミュニティを支援しています。また、多彩なプロジェクトを通じ、音楽家や観客との豊かなつながりを築いています。

今年5月には、大阪・関西万博のウーマンズパビリオンの出展を記念して、コンサート「Mother Earth」を開催。アーティストディレクター兼指揮を務めたシモーネ・メネセスさんは、「クラシック音楽は音楽愛好家だけでなく、誰の心にも深く響く、深遠で普遍的な力を持つっていると信じています。私の目標は、深く、世界規模で、そして時代を超えた影響を与えるコンセプトやプロジェクトを創造することです」と話し、パビリオンの印象について次のように語ります。「ウーマンズパビリオンでの経験は本当に感動的でした。美しさ、シンパルさ、優雅さ、そして深い意味が融合しており、紹介された女性たちの物語から多くの気付きを得ました。女性の課題が、美を通して、非常に繊細で洗練された方法で感動的に描かれていました。」

Publication/Platform: Richesse (Print)

Issue-Date: June 2025

Content: EXPO / MOTHER EARTH concert (4 pages)

Responsible Luxury: Passing Universal Beauty on to the Future

Cartier is a responsible Maison that not only produces beautiful creations but also actively engages with social issues like gender equality and environmental protection. This commitment to realizing a better future is clearly reflected in the Women's Pavilion that Cartier is presenting at Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan, as well as in its recent artistic and cultural activities.

Celebrating Women's Potential Towards a Sustainable Future

Cartier, in collaboration with the Cabinet Office, the Ministry of Economy, Trade and Industry, and the Japan Association for the 2025 World Exposition, is presenting the "Women's Pavilion in collaboration with Cartier." Based on the concept "When women thrive, humanity thrives," it aims to realize a sustainable society where all people can live as equals and have the opportunity to realize their full potential. At the venue, through the experiences and perspectives of women, visitors can gain an understanding of the importance of gender equality and insights into its realization.

After passing through the entrance, a front garden adorned with pine trees and flowers appears, like an oasis to escape the hustle and bustle of the Expo site. In perfect harmony with this abundant nature is the façade, designed by architect Yuko Nagayama, which reuses materials from the Japan Pavilion at Expo 2020 Dubai. "Like a machiya townhouse, we created a passage garden and a courtyard to seamlessly connect the interior and exterior, and we planted trees from the mountains around Osaka to create a lush garden of life," says Nagayama. The trees in the front garden, along with those in the "Upper Garden" on the pavilion's second floor, will be returned to the mountains of Osaka after the Expo.

Publication/Platform: Richesse (Print)

Issue-Date: June 2025

Content: EXPO / MOTHER EARTH concert (4 pages)

The installation inside the pavilion is curated by artist Es Devlin. “For me, the Expo is ‘a collection of unique musical instruments,’ and I see it as ‘a place where each pavilion, as a different instrument, sends out a message on the world stage for six months,’” says Devlin. It provides an immersive space where visitors can experience the lives of three women, including novelist Banana Yoshimoto. The aim is for visitors to perceive gender issues as their own, and for that understanding to lead to concrete action.

A One-Night-Only Concert Celebrating the Earth and the Future: “Mother Earth”

As a responsible Maison, Cartier is also dedicated to supporting the arts. The “Mother Earth” concert held in Osaka became a special stage that strongly reflected this spirit.

Sharing a Passion for Art and Championing Diverse Talent

Cartier respects the power of creation – from craftsmanship to art and architecture – and supports diverse talent. It also sees music as an important element of art and culture and supports the musical community. Furthermore, through various projects, it is building rich connections with musicians and audiences.

This May, to commemorate the opening of the Women’s Pavilion at the Osaka-Kansai Expo, it held the “Mother Earth” concert. Simone Menezes, who served as artistic director and conductor, says “I believe that classical music has a profound and universal power that resonates deeply with everyone, not just music lovers. My goal is to create concepts and projects that have a deep, global, and timeless impact.” She also shared her impressions of the pavilion. “The experience at the Women’s Pavilion was truly moving. Beauty, simplicity, elegance, and profound meaning are fused together, and I gained many insights from the stories of the women featured. The challenges faced by women were movingly depicted through beauty in a very delicate and sophisticated way.”

Publication/Platform: Richesse (Print)

Issue-Date: June 2025

Content: EXPO / MOTHER EARTH concert (4 pages)

Expressing the Preciousness of the Earth with the Power of Emotive Music

Three pieces were performed at the concert, and the one that gathered the most attention was the world premiere of the piano concerto “Mother Earth.” Fazıl Say, who has been referred to as a musical genius, performed with the Osaka Philharmonic Orchestra. In fact, this piece was composed by Say at the request of Cartier. Inspired by one of the pavilion’s themes, the “Great Earth,” he created a work that addresses the climate crisis.

This piece is composed of seven small parts, such as earth, forest, sea, and rivers. While there are passages that are brimming with vitality, there are also parts that seem almost on the verge of dying out. It expresses death and life,” says Fazıl. A variety of instruments recreate the sounds of nature, depicting its beauty, gentleness, and harshness, while also playing the sorrowful cry of the earth.

At the concert, Fazıl performed with great passion and expression, at times stamping his feet to keep rhythm. “We always hope for a democratic and peaceful earth for all people. That is precisely the reason we devote ourselves to art,” says Fazıl. The concert was met with a standing ovation from the audience and concluded with great success.

JAPAN

Publication/Platform: Fashionsnap (Web)

<https://www.fashionsnap.com/article/cartier-womens-pavilion/>

Issue-Date: June 6, 2025

Content: OSAKA KANSAI EXPO



大阪・関西万博に出展中の「ウーマンズ パビリオン in collaboration with Cartier」。「カルティエ (Cartier)」が内閣府、経済産業省、2025年日本国際博覧会協会と共同出展したパビリオンは「ともに生き、ともに輝く未来へ」のコンセプトのもと、女性のエンパワーメントに賛同する国際的なアーティストやアクティビストと共に、訪れる人々にインスピレーションを与える没入型体験を提供しています。万博開幕から1ヶ月経った5月下旬、開館を祝うセレモニーをはじめ、セレブレーションイベントが開催。3日間を通して、パビリオン内外での体験を通して、カルティエの先進的な取り組みを紹介します。

世界が注目するセレブレーションイベントのハイライト



オープニングセレモニーでは、「ともに生き、ともに輝く未来へ」のメインテーマのもと、詩の朗読やドラムパフォーマンスのほか、女性のエンパワーメントを体現してきたグローバルリーダーたちによるスピーチが披露。フィナーレには和太鼓や雅楽の演奏をバックに奄美大島出身の唄者 里アンナによる力強い歌声で日本古来の自然讃美を歌ったオリジナル曲「心に咲く花」が会場に響きわたり、エズ・デヴリンが手掛けた舞台演出と相まって、約1600人の観客を感動の渦に巻き込みました。

Publication/Platform: Fashionsnap (Web)

<https://www.fashionsnap.com/article/cartier-womens-pavilion/>

Issue-Date: June 6, 2025

Content: OSAKA KANSAI EXPO

翌22日には堺市内でカルティエが創設した女性起業家支援プログラム「カルティエ ウーマンズ イニシアチブ (CWI)」のインパクトアワード授賞式が開催され、9人の社会にインパクトを与える女性起業家が表彰されました。2006年の創設以来19年目を迎えるこのプログラムでは66ヶ国約330人のフェローを輩出。現在2026年度CWIを募集しており、女性起業家の更なる活躍を後押ししています。

国籍や世代の異なるリーダーたちのストーリーと出会い、さまざまな視点から女性にまつわる社会課題に触れることで、学びと気づきを与えてくれる「ウーマンズ パビリオン」。性別を問わず訪れたすべての人が、社会との関わりを"ともに"考えることでより良い未来を手繰り寄せることができるはず。大阪・関西万博のウーマンズ パビリオンで「ともに生き、ともに輝く未来へ」の一歩を踏み出してみては。



■ ウーマンズ パビリオン in collaboration with Cartier

会期：2025年4月13日～10月13日

開館時間：9:00～21:00

場所：東ゲート側 日本館の隣

※万博会場入場には「[EXPO2025デジタルチケット](#)」サイトでチケットが必要。パビリオンは予約なしでも入場可。

3日間にわたるセレブレーションイベントの最後を締め括ったのは、特別記念コンサート「マザーアース (Mother Earth)」。大阪のザ・シンフォニーホールで開催された公演では、シモーネ・メネセス氏の指揮のもと、ファジル・サイ作曲のピアノ協奏曲「Mother Earth」が世界初披露され、大阪フィルハーモニー交響楽団と共演しました。自然の四要素（水、空気、火、大地）に着想を得たこの協奏曲は、地球温暖化への深い懸念と警鐘のメッセージも込められています。



Publication/Platform: Fashionsnap (Web)

<https://www.fashionsnap.com/article/cartier-womens-pavilion/>

Issue-Date: June 6, 2025

Content: OSAKA KANSAI EXPO

"Empowerment" at the Osaka-Kansai Expo: The Full Picture of the Cartier Women's Pavilion

The 'Women's Pavilion in collaboration with Cartier' is currently exhibiting at the Osaka-Kansai Expo. Cartier, in joint exhibition with the Cabinet Office, the Ministry of Economy, Trade and Industry, and the Japan Association for the 2025 World Exposition, is presenting a pavilion based on the concept of “Living Together, Designing Together, For the Future”, international artists and activists who support women's empowerment, it offers visitors an immersive experience that inspires. In late May, one month after the opening of the Expo, a ceremony to celebrate the opening was held, along with celebration events. Over the course of three days, Cartier's advanced initiatives will be showcased through experiences inside and outside the pavilion.

A Pavilion Embodying Cartier's Vision

Cartier views gender equality and women's empowerment as a responsible action for a luxury Maison, and has been actively engaged in awareness-raising activities and continuous support. At the Osaka-Kansai Expo, following the Dubai Expo, the Women's Pavilion is being presented again. Located next to the Japan Pavilion outside the Great Roof Ring in the East Gate Zone, the Women's Pavilion is marked by a facade made of a combination of pure white three-dimensional lattices. The Kumiko facade, designed by architect Yuko Nagayama for the Japan Pavilion at the Dubai Expo, which combines Japanese tradition and modernity, has been reused at the Osaka-Kansai Expo, breathing new life into it as the Women's Pavilion.

Immersive Storytelling Experience: Following the Route Inside the Pavilion

JAPAN

Publication/Platform: Fashionsnap (Web)

<https://www.fashionsnap.com/article/cartier-womens-pavilion/>

Issue-Date: June 6, 2025

Content: OSAKA KANSAI EXPO

Passing through 'THE GARDEN' at the entrance, where the blue sky peeks through the Kumiko facade, you enter the two-story pavilion following the audio guide from the headset distributed at the entrance. You register your name, which becomes the main character of the journey, by voice, and the experience at the pavilion begins. Es Devlin, a British contemporary artist who has worked on the closing ceremony of the London Olympics and numerous set designs, serves as the Global Artistic Lead for the pavilion.

First, guests are welcomed into the 'THREE WOMEN' room. Short films by Es Devlin and film director Naomi Kawase, featuring three women – novelist Banana Yoshimoto, poet and activist Emtithal Mahmoud, and environmental activist Xiye Bastida – are projected. Visitors are led to a story in 'THREE PATHWAYS' that follows the life of one of these three women, and proceed through the door.

After virtually experiencing the journeys of three women of different nationalities, ages, and professions, visitors pause for a moment and enter the 'MA' space to confront themselves. Here, in the Expo venue where many people visit every day, they spend a moment of silence.

The 'PUZZLE BOX' is a learning room where statistical data on women in modern society from UN WOMEN, as well as the current state of gender equality and actions by leaders from various countries, are projected. There is also an interactive exhibit where you can touch the options displayed on the screen to diagnose your own leadership type.

And in the final room, 'YOUR HAND' 14 diverse role models appear. When you hold your hand over each character's booth, which appears with visual effects, an uplifting message emerges – that's the mechanism.

Climbing the stairs to the second floor, the open-air garden 'UPPER GARDEN' spreads out expansively. The plants in the pavilion, designed by landscape designer Toshiya Hagino, are mainly composed of local plants, and the trees will be returned to the local mountains after the Expo.

Publication/Platform: Fashionsnap (Web)

<https://www.fashionsnap.com/article/cartier-womens-pavilion/>

Issue-Date: June 6, 2025

Content: OSAKA KANSAI EXPO

During the Expo, in the 'WA' space on the second floor, over 150 events such as lectures and panel discussions will be held regularly under six themes, inviting world-renowned experts and visionary leaders. These events will provide the audience with opportunities to think and encourage them to take a step towards action. Anyone can participate with advance reservation. In June, Hidetoshi Nakata, Tetsuya Kumakawa, fashion designer Gabriela Hearst, SHELLY, and others are scheduled to speak. The website is constantly updated with the latest information.

Chitose Abe, designer and creative director of 'sacai' is in charge of the pavilion's attendant uniforms. The uniforms feature a white shirt paired with gray pants, characterized by sacai's signature silhouette and details.

Highlights of the Celebration Event Attracting Global Attention

As part of the celebration events, ceremonies and concerts will adorn the stage of the Expo. On May 21st, the opening ceremony was held at the EXPO Hall within the Expo site. Approximately 1600 people from Japan and abroad rushed to celebrate, adding glamour to the special day.

At the opening ceremony, under the main theme of "Living Together, Designing Together, For the Future" in addition to poetry readings and drum performances, speeches were given by global leaders who have embodied women's empowerment. In the finale, to the accompaniment of Japanese drums and gagaku music, Anna Sato, a singer from Amami Oshima, sang her original song 'A Flower Blooming in the Heart' which praises the nature of ancient Japan, with a powerful voice that resonated throughout the venue. Combined with the stage production by Es Devlin, it captivated the approximately 1600 spectators in a whirlwind of emotion.

JAPAN

Publication/Platform: Fashionsnap (Web)

<https://www.fashionsnap.com/article/cartier-womens-pavilion/>

Issue-Date: June 6, 2025

Content: OSAKA KANSAI EXPO

On the following day, the 22nd, the Cartier Women's Initiative (CWI) Impact Awards ceremony, a support program for women entrepreneurs founded by Cartier, was held in Sakai City, and nine women entrepreneurs who are making an impact on society were recognized. This program, which is in its 19th year since its founding in 2006, has produced approximately 330 fellows in 66 countries. Currently, CWI is recruiting for the 2026 program, further supporting the success of women entrepreneurs.

The three-day celebration event concluded with a special commemorative concert, 'Mother Earth' At the performance held at The Symphony Hall in Osaka, Fazıl Say's piano concerto 'Mother Earth' was premiered under the direction of Simone Menezes, in collaboration with the Osaka Philharmonic Orchestra. Inspired by the four elements of nature (water, air, fire, and earth), this concerto also contains a deep concern and warning message about global warming.

The 'Women's Pavilion' offers learning and awareness by encountering the stories of leaders of different nationalities and generations, and by touching on social issues related to women from various perspectives. Regardless of gender, everyone who visits can draw a better future by thinking 'together' about their involvement with society. Why not take the first step "Living Together, Designing Together, For the Future" at the Women's Pavilion at the Osaka-Kansai Expo?